



## 巻頭言

インターナショナルオフィス長・理事(総務・研究担当) 板野 俊文

“グローバル”とは、ウェブでは「国家の垣根を越えた状態や行為のこと」と解されている。昔は「地球的」とか、「全世界的」と訳されたような記憶があるが、現在はこのような解釈である。しかし、英語の“Global”と日本語の「グローバル」とは音は一緒でも意味は異なる。また同じ日本人の間でも年代間の理解にも差がある。

では、何故、今、グローバル化なのか？昨年、タイで洪水があった。当初は外国のことだと思っていたが、その内、日本の生産ラインに大きな影響が出始めた。工業製品の部品の生産が、人件費が安い東南アジアの国々に移ったことを思い知らされた。我々が思っていた以上にグローバル化が進んでいることを知った。さらに、多くの日本人の人々が海外で働いていることを知った。我々はグローバル化社会の真ただ中に生きているのだ。

では、グローバル時代に生きるグローバル人材に必要とされる条件とは何か？

1. 国や地域の人々と意思疎通を図ることが出来るコミュニケーション能力を持っている。
2. 国や地域によって異なる文化や歴史によって形成される習慣やルールを尊重し、現地の人々とうまく共存して生活出来る。
3. 必要とされる分野での専門性の知識や技術をもっている。
4. 日本人としての教養とアイデンティティをもっており、日本の文化、歴史を的確に伝えることが出来る。

どうかすると、英語ができるとかという簡単な条件だけが強調されそうである。しかし、人間として、確立された人格や能力が必要であることが重要なのである。そのためには短期であれ長期であれ、外国で生活することは必須である。それによってこそ、外国を知り、現地の人々を知り、その人々を尊敬し、また尊敬される人間となることが重要である。

香川大学では、このようなグローバル人材の育成を行おうとしている。そのためにはまず第一歩として、ありきたりではあるが、外国語が自由に話せる必要がある。若い人々なら1-2か月の短期留学でもかなりの語学力がつく。この身についた語学力をもとに、より専門性を生かすために、外国の大学の講義を受講し、単位の取得を目指すような仕組みを作っていきたい。このためにクォーター制を導入している協定校への科目等履修生としての留学を行うのも一つの可能性である。また、さらなる専門性を獲得するためには、1年またはもっと長い期間の留学を実施していく。この場合はジョイントディグリーやダブルディグリーの取得を目指すことも大切である。

現在、ダブルディグリー制は香川大学とチェンマイ大学とのみ協定が結ばれているが、より多くの大学と協定を結び、多くの学生が望むようなグローバル人材育成プログラムを作成することで、時代の要請にこたえるような仕組みを構築する予定である。そのためにも具体的な要望をインターナショナルオフィスに出して頂きたい。それらにこたえていく所存である。



## 平成 24 年度前期インターナショナルオフィスの活動

### < 国際交流活性化の推進 >

#### 学術交流協定締結調印

- 2012 年 3 月 7 日 本学医学部看護学科及び大学院医学系研究科看護学専攻とチェンマイ大学看護学部及び大学院看護学系研究科との学術交流協定に関する実施細則
- 2012 年 3 月 31 日 本学工学部及び大学院工学研究科と北京師範大学化学学院との学術交流協定書、本学工学部及び大学院工学研究科と北京師範大学化学学院との学生交流プログラムに関する実施細則、本学工学部及び大学院工学研究科と北京師範大学化学学院との学術交流協定に関する実施細則
- 2012 年 5 月 7 日 本学と浙江工商大学との学術交流協定書、本学と浙江工商大学との学術交流協定書に基づく学生の交流に関する実施細則、本学農学部及び大学院農学研究科と浙江工商大学食品及び生物工程学院及び大学院研究科との学術交流協定に関する実施細則

(国際グループ 古島 愛)



チェンマイ大学との調印式 (部局間協定)



北京師範大学との調印式 (部局間協定)

## ショートステイ学生がインターナショナルオフィス長を表敬訪問

平成 24 年 5 月 21 月(月) 本学教育学部にショートステイする米国・コロラド州立大学(以下、CSU)の教員 1 名と学生 6 名が、本学の板野インターナショナルオフィス長を表敬訪問しました。

CSU と本学は、平成 14 年 10 月に研究交流を中心とした学術協定を結んでいます。CSU では、毎年 100 人以上の 1 年生が日本語授業を履修し、日本語を学びたい学生が増えていること、また、本学

では、英語圏への留学機運が高まりつつあることから、近年は、学生交流も活発に行われ始めています。

訪問当日は、本学から、板野インターナショナルオフィス長、高木教育学部教授他、香川県から、コロラド州出身の国際交流員であるクリストファー・マッケープ氏が出席しました。板野インターナショナルオフィス長からの歓迎の挨拶、高木教育学部教授からの主旨説明の後、CSU の教員と学生が自己紹介を行いました。その後は、コロラドの風土や産業、CSU での学生生活、将来の進路など和やかな懇談となりました。

学生は、訪問後、附属学校園訪問や授業参観、合気道演武見学、ホームステイなど充実した 5 日間を過ごしました。

(国際グループ 中塚 紗和子)



オフィス長による歓迎の挨拶



自己紹介の様子



記念撮影

## < 学生対象行事 >

### (平成 23 年度) 帰国予定の留学生を囲んでの意見交換・反省会の開催

平成 24 年 2 月 24 日(金) 地域の方々の参加も得て行いました。従来の食事や歓談に加え、今回は、香川の文化を学んで卒業・帰国等してほしいということで、初の取り組みとして参加者全員で「こんぴらふねふね」の踊りを習って踊りました。送別する側にとってもされる側にとっても印象深いひとときになりました。

(インターナショナルオフィス 塩井 実香)



「こんぴらふねふね」練習中(和服の女性が講師)

### 春期新入留学生ガイダンス・歓迎会の開催

平成 24 年 4 月 7 日(土) 新入留学生ガイダンスが実施されました。留学生センターによる生活ガイダンスに引き続き、高松北警察署による法令遵守ガイダンスが行われるという内容で、40 名の新入留学生が参加しました。その後行われた歓迎行事(情報交換会)には、地域のボランティア団体等を含め、100 名を超える皆様にご参加いただき、にぎやかな新生活のスタートとなりました。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



高松北警察署の皆様の話聞く留学生



歓迎行事の様子

## 「海外体験型異文化コミュニケーション」授業のスタート

国際ナショナルオフィスでは、平成 24 年度から「海外体験型異文化コミュニケーション」を主教科目の一つとして開講しています。今年度は経済学部、教育学部、法学部、農学部の 1～2 年生 6 人が受講し、平成 24 年 8 月 22 日（水）から 9 月 2 日（日）には、国際ナショナルオフィス教員とともにタイ北部で研修を行いました。研修中は、チェンマイ大学の学生とグループ・ディスカッションをしたり、タイ北部山岳民族の子どもたちの施設「暁の家」やランブーンの日系企業を訪問したりして、タイ北部の様々な面について学びました。

（国際ナショナルオフィス 細田 尚美）



チェンマイ大学学長補佐（下段左から 2 人目）らによる  
研修オリエンテーション



タイ北部の NGO 訪問時の交流会で  
子どもたちに日本の歌を紹介



## 留学生のための就職支援サービス登録会の実施

日本企業へ就職を希望する学生を対象に、キャリア・コンサルタントが企業を紹介し、入社までを無料でサポートする事業が始まりました。平成 24 年 6 月 13 日（水）に幸町で、同 27 日（水）に工学部で、本事業を担当する株式会社クリエアナブキによる、就職支援サービス登録会が行われ、本事業の説明および就活セミナーに出席した留学生は、後日個別に面談を行いました。

（国際ナショナルオフィス 高水 徹）



幸町会場



工学部会場

## 第 17 回日本語語学研修プログラムの実施

平成 24 年 6 月 25 日(月)から 7 月 6 日(金)まで、台湾より 3 名、韓国より 2 名を迎えて実施しました。今回は研修生が少なかったのですが、そのぶん研修生同士の絆が強くなり、サポートしてくれる本学学生「Buddies」たちとも密な交流ができたようです。体験学習では、前回に引き続き書道部と石州流茶道部が、そして今回初めて華道部も協力してくれ、楽しく伝統文化を学ぶことができました。

(インターナショナルオフィス 塩井 実香)



小豆島「ヤマロク醤油」にて



浴衣で修了式



理事表敬訪問

## 2012 年度春期日本語研修コース

平成 25 年度から大学院生として本学に所属する国費留学生の予備教育として、日本語研修コースを開講しました。平成 24 年 4 月 6 日(金)の開講式では、学生のスピーチと記念撮影が行われました。今回は中級以上の日本語力を持つ学生が予備教育を受けることとなったため、留学生センター開講の科目だけではなく、大学教育開発センターによる、学生の日本語力に適した科目を多数受講することになりました。他の留学生との学習面における交流を図ることができるのも、1 つのメリットであると言えます。センター開講科目においては、本人の現時点での日本語力と希望を一部考慮し、漢字学習を重点的に行いました。平成 24 年 8 月 7 日(火)に行われた修了式では、学習の成果や今後の大学院へ向けての取り組みなどについてのスピーチがなされました。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



受講生のガガウソフ・グレブさん(右から 4 番目)と教職員

## 「留学生と青年経営者の集い」の実施

平成 24 年 7 月 17 日(火) 香川県中小企業団体中央会青年部との共催により、「留学生と青年経営者の集い」を研究交流棟 6 階第 1 講義室において実施しました。

これは、留学生の採用を検討している中小企業と県内の就職を検討している留学生が、意見交換により相互理解を図ることを目的に実施したもので、8 名の留学生と 7 名の青年経営者が参加しました。ディスカッションでは、「どのような仕事につきたいか」、「日本企業が留学生に求めることは何か」をテーマにざっくばらんに話し合いました。

経営者から、学生生活をどのように送るべきか、就活する際のポイント、企業をどのように選んだらよいか、などのアドバイスや、経営に対する考え方などを直接聞くことができ、留学生にとって大変有意義な機会となりました。

(国際グループ 浅野 文恵)



青年経営者の挨拶



ディスカッションの様子

## 「東南アジアなどの食品安全機能解析教育に関する相互交流プログラム」における連携

本学農学部は、平成 24 年 8 月 21 日(火)から 9 月 21 日(金)まで、標記プログラムによるショートステイ学生 15 名を受入れました(内 1 名は私費参加)。学生の内訳は、タイ 9 名、中国 3 名、米国 2 名、インドネシア 1 名となっています。

同日、インターナショナルオフィス長の表敬訪問が行われました。板野オフィス長による歓迎挨拶、早川農学部長によるプログラムの趣旨説明に続き、参加学生の自己紹介と本学からのお土産の贈呈が行われ、記念写真が撮影されました。

昨年同様、プログラムには留学生センターによる日本語授業が組み込まれており、学生たちは、挨拶、自己紹介、買い物の表現など、日本滞在中に役立つ実践的な日本語を学んでいます。さらに、プログラム終盤には KU CMU ジョイントシンポジウムへの参加も予定されています。

(インターナショナルオフィス 高水 徹)



集合写真



日本語授業の様子

## ブルネイ・ダルサラーム大学に香川大学コーナーを設置

香川大学の海外教育研究拠点大学の一つであるブルネイ・ダルサラーム大学の図書館1階に平成24年8月1日から香川大学コーナーが設置されました。このコーナーには、香川大学の英文パンフレットなどが置かれているほか、香川大学の留学生の様子や香川県の特産品などを紹介するポスターなどが貼られており、ブルネイ・ダルサラーム大学の教職員や学生が自由に閲覧できるようになっています。コーナー設置作業には、同大学でのサマー・プログラムに参加している香川大学医学部の学生6名も加わりました。  
(インターナショナルオフィス 細田尚美)



香川大学コーナーの様子



香川大学コーナーの設置を手伝う香川大学医学部学生とブルネイ・ダルサラーム大学医学部の学生

以下の活動については、[インターナショナルオフィスのホームページ](#)で詳細をご覧ください。

### 内海国際プラットフォーム (ISIP) キックオフ・シンポジウムの開催

平成24年3月23日(金) かがわ国際会議場(サンポート高松)において「内海国際プラットフォーム (ISIP) キックオフ・シンポジウム」を開催しました。

本シンポジウムは、香川大学の国際的な学術・交流の重点テーマの一つである「瀬戸内海を介した、世界の内海領域の文化・芸術・産業等の育成・創造と発信に関する国際共同研究」の一環として地域の各界各層を対象に開催したものです。



### 「日本ができる世界平和への貢献」講演会の開催



平成24年5月9日(水) アリ・ナクジャヴァニ氏をお迎えし、「日本ができる世界平和への貢献」をテーマに講演会を開催しました。

アリ・ナクジャヴァニ氏はこれまで40カ国で世界平和と国際統治に関する演説を行ってきましたが、今回初めての来日公演となりました。



## 海外留学ガイダンスの開催

平成 24 年 5 月 30 日(水)、インターナショナルオフィス・留学生センター主催「平成 24 年度第 1 回海外留学ガイダンス」を開催しました。

海外留学に関心をもつ学生を対象に、本学の海外留学プログラムや学术交流協定校の紹介、夏休み期間中の海外（オーストラリア、カナダ、韓国）の大学での短期語学研修などについての説明を行いました。



## 国際研究支援センター研究会シリーズ第 1 回、第 2 回の開催

平成 24 年 6 月 8 日(金)、平成 24 年度国際研究支援センター研究会シリーズ第 1 回「日本語学習の促進 - 理系学生の日本語学習観に対するショートステイ・プログラムの効果」を開催しました。

平成 24 年 7 月 23 日(月)には、第 2 回「四国の美味をベトナムへ - ベトナム・メコン地域における食品市場と四国の食品産業の展開可能性」を開催しました。



## 駐日ドイツ連邦共和国大使特別講演会の開催



平成 24 年 6 月 11 日(月)、香川大学幸町キャンパス研究交流棟 5 階で、Dr. Volker Stanzel 駐日ドイツ連邦共和国大使を招へいし、特別講演会「ユーロの危機」を開催しました。

講演会では、EU 設立の背景やユーロができるまでの歴史やユーロの意義を説明しながら、現在 EU 諸国の抱えている課題、これからの展望についての話がありました。

## 「第 4 回香川大学・チェンマイ大学合同シンポジウム」の報告

平成 24 年 9 月 19 日(水)から 21 日(金)の 3 日間、香川大学にてチェンマイ大学と合同でシンポジウムを開催しました。“Healthy Aging and Sustainable Society” をテーマに、本学とチェンマイ大学の研究者や学生が研究発表やディスカッションを行いました。シンポジウムの詳細は、本ニュース第 8 号(平成 25 年 3 月発行予定)で報告いたします。



## 部局の国際交流活動

### 平成 24 年度留学生交流支援制度( ショートステイ、ショートビジット )の採択

独立行政法人日本学生支援機構が実施している留学生交流支援制度( ショートステイ、ショートビジット )に、平成 24 年度は、7 件、152 名分の奨学金が採択されました。本制度は、双方向型留学生政策として、3 か月未満の留学生受入れ、または 3 か月未満の学生派遣のプログラムに参加する学生を対象とした奨学金を給付するものです。参加学生は、海外の協定校や提携校に行き、授業の受講や文化体験、インターンシップなどを体験します。

昨年度、このプログラムをきっかけとして、海外に対する関心が高まった昨年度の参加学生のうち 3 名が、今年度、海外の大学等に、海外からは、本学の教育プログラムに興味を持ち、学位授与を目的としたコースに 4 名が入学しました。今後も学生の長期留学につながるように、プログラムの改良・充実を図り、継続していきます。

(国際グループ 中塚 紗和子)

#### 平成 24 年度プログラム

部局名	プログラム名
教育	チェンマイ大学異文化交流プログラム
教育	コロラド州立大学異文化交流プログラム
経済	交流協定校との複線型海外研修プログラム
医	イギリスの医学部での臨床研修をとおして知る医療のグローバルスタンダード
工	香川大学大学院工学研究科とサボア大学ポリテク・アヌシー・シャンベリーとの国際インターンシッププログラム
農	東南アジアなどの食品安全機能解析教育に関する大学間相互交流プログラム
農	生物資源生産技術の共有による国際教育支援プログラム



タイでの食品実習の様子



ブルネイ学生の県副知事表敬訪問

(ともに平成 23 年度)

## 「経済学部国際交流デー」

平成24年4月25日(水)、経済学部ではE11講義室で午後1時より「海外研修報告会」、午後3時から「留学ガイダンス」を、そして夕方6時半より場所を大会館に移して「留学生を囲む会」を開催しました。3つの行事を一日にまとめて開催したのは今年が初めてです。この中でも最も以前から行っているのは経済学部が大学間協定や学部間協定を締結している大学への交換留学プログラムの説明会「留学ガイダンス」です。このガイダンスは毎年4月に行っていますが、その理由として二つをあげることができます。一つは入学したての1年生に気持ちが新鮮な間にアピールすること、もう一つは派遣の重要な条件に語学力がありますが、その証明となる語学検定試験は初修外国語では新年度ではだいたい6月末に実施され、その受験申し込み締め切りが5月半ばにあり、それに間に合うようにということです。なお、募集は海外研修と合わせて10月に行います。前年度末3月に実施する「海外研修(アメリカ、ドイツ、フランス、中国または台湾、韓国)」の報告会も以前は個別に、内輪でしていましたが、数年前から各方面の研修を統一して実施し、しかも「留学ガイダンス」の前段としました。このように両方のイベントを通して、学生は、1・2年生のうちに、まず「海外研修」で「プチ留学」をし、続いて3年次、または4年次に協定大学へ1年間の留学をすることを考えることができるようにしています。実際に留学した「海外研修」参加者も多くいます。もともと経済学部の「海外研修」は協定大学への留学を促進するために開始した授業で、今までにそれなりの成果を上げました。研修先も協定大学が中心です。海外研修報告会は3月の「興奮冷めやらぬ」うちに後輩に経験を伝えたい、というところでしょうか。この報告会にもガイダンスも多くの学生が聞きに来ていました。これら二つに加え、本年度は昨秋初めて実施した「留学生を囲む会」も同じ日の夕方に開催しました。これは昨年春に計画していましたが、東日本大震災もあって、半年ずらしました。どれほどの学生が集まってくれるかと心配でしたが、一回目は僅か数日という周知期間にもかかわらず70名を超える留学生、一般学生、教員が集まって和気藹々と楽しいひとときを過ごせました。このとき、主に留学生からずいぶんと好評を得、「どうしてもっと早くしてくれなかったのか」との苦言もあり、これから留学生が来る4月・10月と開催することにし、今春は午後の行事と併せて、いわば「経済学部国際交流デー」としたわけです。この夕方には前回よりもさらに多く100名もの参加があり、一般学生や教員も多くの刺激を受けました。この催しが留学生と関係教員およびチューターの学生だけでなく、他の教員や多くの一般学生も巻き込み、学部全体でできるだけ多くの人に参加できるような行事になるように学部全体で努めることにしています。

(経済学部 高木 文夫)



留学生を囲む会



海外研修報告会

## 留学生の声



Gagauzov Gleb  
(Russia)

香川に来た時、一番驚かせたのは周りの人のしゃべり方だ。日本に行く前に関西弁を勉強したことがあったから、少しぐらいでも分かるんじゃないかなと思っていた。だが驚いたことに香川の言葉が私は勉強した言葉とまったく違っていった。しばらくすると香川出身の人だけではなくて高知県や徳島県の友達ができ、同じの四国でも場所によって言葉も料理も習慣もすごく違うことがあると分かった。

もともとロシア語には場所によって言葉が違うことがまったくないから、私はいつも日本語の方言というものに憧れていて、最初から様々な言葉が使われている場所に行きたかった。だから香川大学に来て夢が叶ったと思う。香川大学は私にとって方言を学ぶ最高のチャンスになった。

ガガウゾフ・グレブ  
(留学生センター留学生)

## インターナショナルオフィスからのお知らせ

- 日本人学生と外国人留学生の交流を図ることを目的として「ランチプレゼンテーション会 (LP 会)」(隔週の月曜日、12:05 ~ 12:45、研究交流棟 4 階・国際交流スペース)を開催しています。すべての学生が参加可能です。事前の予約も必要ありません。ぜひ一度のぞいてみてください。
- 平成 24 年 11 月 26 日(月)~30 日(金)、「インターナショナルウィーク」を開催します。海外留学から帰国した学生による報告や海外留学プログラムの紹介、学术交流協定校の紹介などを予定しています。海外留学や国際交流に関心のある学生は足を運んでみてください。詳細は、インターナショナルオフィスのホームページ等でお知らせします。
- 平成 24 年 11 月 30 日(金)18:00~20:00、ホテルパールガーデンにて、「学長主催外国人留学生交歓会」を開催します。普段はあまり交流の機会がない留学生も、この機会にぜひ交流の輪を広げてください。詳細は、インターナショナルオフィスのホームページ等でお知らせします。
- 今秋、「第 7 回 留学生生活実態調査」を実施します。10 月頃を予定しています。外国人留学生の本学での勉学や生活状況を把握するための調査です。すべての留学生を対象としていますので、留学生の皆さんは調査へのご協力をお願いします。詳細は、インターナショナルオフィスのホームページ等でお知らせします。

香川大学  
インターナショナルオフィスニュース  
第7号 2012(平成24年)9.30

香川大学インターナショナルオフィス  
〒760-8521 高松市幸町 1-1  
Tel : 087-832-1194 Fax : 087-832-1192  
E-mail : sorryugase@jim.ao.kagawa-u.ac.jp  
URL : <http://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/>